

地域おこし
協力隊



地域と共に輝く人



さぬきの輪 TIMES 12

さぬきの輪 TIMES 12

目次

- 4 地域おこし協力隊
地域に新しい風を吹き込む
- 6 琴平町地域おこし協力隊
寺岡 伊代
- 8 善通寺市地域おこし協力隊
日高 慎一郎
- 10 地域をつなぐ 香川県のローカルを導く人
湯川 致光さん
- 12 協力隊のオススメ香川歩き
- 14 さぬきの輪の活動
- 15 地域おこし協力隊の活動場所



協力隊同士の対談を
さぬきの輪WEBで掲載中!



撮影:日高慎一郎(善通寺市地域おこし協力隊)



～地域おこし協力隊を中心に、
香川県内で地域活性化に取り組む人々を紹介する冊子～

都会から移り住んで活動する地域おこし協力隊。その活動は様々ですが、皆得意なことを生かして地域活動を行っています。その活動には地域の方々や自治体職員さんの支えがあり、それぞれが協力しあって地域づくりの一端を担っています。

香川県ではどんな活動をしている人がいるのか、紙面で紹介している人の顔が見えるようにと上に集合写真を載せています。それぞれの活動を表す服装や持ち物で撮影に参加いただきました。この冊子を通して地域おこし協力隊をより身近に感じていただけたら嬉しいです。

Forest Lover

土庄町地域おこし協力隊

大西 歩 Onishi Ayumu

地元（兵庫県）の介護施設で勤務後、兵庫県立森林大学校に入學。日本と海外の林業の現状を学び、在学中に来島した小豆島にて手入れの行き届いたヒノキの人工林に感動する。小豆島の木材を流通させる新しい仕組みづくりや伐採後の捨てられる木材の利用価値を生み出すことに興味を持ち、地域おこし協力隊として土庄町森林組合と連携し活動している。

【問い合わせ先】
●tbxfxagh098.ds@gmail.com



“森”に寄り添い続けること、それが私のライフワーク

林業という仕事

10代に患った2度の大病が影響し、定職に就くことが難しかった私の仕事を選ぶ“ものさし”は、「やりたい仕事」よりも「雇ってくれる仕事」でした。しかし今、初めて自らの意思で選んだ「林業」という仕事に従事しています。

夏の暑さや冬の寒さはこたえますし、常に危険と隣り合わせの大変な仕事で、大木が足元に滑り落ちてきて全治3週間の大ケガをしたこともありましたが、森の木の伐採をはじめ、成長を促すために枝打ちしたり、生育状況の悪い木や曲がった木などを間引きながら、収穫を迎えるまで大切にお世話する仕事に大きなやりがいを感じています。

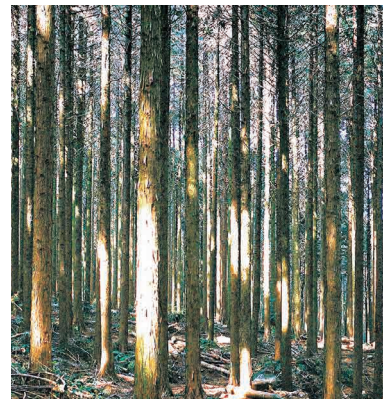


また、現場を知る林業従事者だからこそ見つけることができる「森の価値」を、地元の子どもたちや林業見学を希望する学生などに伝える役割も担っています。

林業の新しい価値

森に入った時、心が晴れるような気持ちの良い気分になったことはありませんか？今、森林セラピーや森林サウナ、サバゲーといった健康・観光・教育などの多様な分野と「森林空間」を絡めて活用しようとする“森林サービス産業”が、全国的にじわじわと広がりつつあり、新しい産業が生まれています。

「森の価値を見つけ、その価値を求めている人に繋いでいく…」そのような森への寄り添い方や魅力を伝えていくことも、林業の活動を通じて森の魅力に気づかされ、様々な人と繋がることのできた地域おこし協力隊員だからこそできるアプローチだと思っています。これからも林業との新しい関わり方を模索し、可能性を広げていく活動に力を注いでいきたいと思っています。



手入れの行き届いた森の姿は、この世のものとは思えないほどの美しさと輝きを放ち、心を動かされます。森は、結婚式前の前撮り写真や結婚記念のフォトウェディングを彩るロケーションとしても可能性を感じています。

Global Community Supporter

小豆島町地域おこし協力隊

喰代 伸之 Hojiro Nobuyuki

1985年東京生まれ。一橋大学を卒業後、イギリスの大学院で政治学を専攻。帰国後、国家公務員となりASEANやG20など国際会議の仕事に従事するも、激務に耐えられず退職。のびのびと子育てできる環境を求めて東京から小豆島に移住。2020年小豆島町地域おこし協力隊に就任し、地域のグローバル化の活動を展開するほか、副業で学習塾を経営している。

【問い合わせ先】
●<https://www.facebook.com/nobu.hojiro>
●n.hojiro@gmail.com
【ラジオ配信「5分でためになる大学受験ラジオ」】
●<https://open.spotify.com/show/389eZvd9gwksle9zFZ5GDE>



Facebook



島の未来は教育から始まる



日本語教室の様子

日本語を学ぶ場をつくる

グローバル化の波は小豆島にも押し寄せています。現在、小豆島町の外国人は150人あまりですが、50年後には「5人に1人が外国人」の社会にならないとも限りません。

外国人にとって住みやすいまちづくりの第一歩として、私は「日本語教室」の立ち上げに注力しています。町は2021年から「文化庁地域日本語教育スタートアッププログラム」の採択団体となり、日本語教室の開催を重ねています。

仕事で使う会話や日本語能力試験（JLPT）対策などさまざまなプログラムを用意し、一緒に勉強を続けています。将来的には、外国人の生活のよりどころとなるような教室に育てていきたいと考えています。

真の地方創生は「教育」にあり

地方創生の取り組みは多岐にわたりますが、中でも重要なのは「教育」だと思っています。50年後の地域を担う子どもたちに、グローバル化やデジタル化によって激変する社会を生き抜く力をつけてもらう必要があります。

私は副業で学習塾を経営しています。中高生を対象に、定期テスト対策から難関大学に向けたハイレベル指導まで幅広く行っています。生徒さんたちの頑張りもあり、確かな手応えを感じています。

本物の学力を身につけるためには、個別のコーチングが必要です。私は生徒の「伴走者」として、50年後の未来を見据えた地域づくりに貢献したいと考えています。興味を持たれた方は、ぜひ気軽にご連絡ください。



塾の様子



ANAから琴平町の地域おこし協力隊になっている高橋未来さんと武田茉央さん、台湾出身の王迎歡さん。3人のおかげで一つでも楽しかったし、世界が広がりました！琴平町にとっても、大きな意味があったと思います。全く違う4人だからこそ、よかった。本当に心から出会えてよかったと思える素敵な人たちです。(左から武田隊員、王隊員、寺岡隊員、高橋隊員)



ことひらまちじゅう図書館



広報ことひら

琴平町
KOTOHIRA

【琴平町地域おこし協力隊】 寺岡 伊代 Teraoka Iyo

Uターン移住者でもある寺岡隊員は、一人娘をもつ母親。優しく包み込んでくれるような懐の深さと太陽のような輝きを放つステキな笑顔が魅力的で、地域に溶け込み琴平の町や人の魅力を伝える活動で貢献されています。

PROFILE

普通寺市出身。結婚を機に広島県尾道市へ。アグレッシブな自営一家に嫁いだことから、10年間様々な事業を経験。事業譲渡を機に、夫に勧められ地域おこし協力隊へ応募。令和3年度で着任3年目を迎える。

寺岡隊員の琴平町のポータルサイト
「DISCOVER KOTOHIRA」 <http://34.134.96.21/>

【活動内容】
SNS情報発信、琴平町公式YouTubeでの発信を行っている。



私がここにいる理由

「自分は運がいい」と思えるか思えないかって、生まれた時から細胞レベルで決まっている——。私は、2年間妊活をして子どもができたんですが、出産後に脳出血したんです。突然、腕がしびれ、ろれつが回らなくなると、緊急手術を受け、幸い大事には至らずでした。お金も時間も使い、心もすり減らしてやっとの思いで娘に出会えました。とにかく私は昔から運がいいと思っていました。けれど、そんな苦しい経験をして、リアルに「死」を感じたことで、「このままでいいの？」と思うようになりました。

その頃から家業の「仕入れて売って利益を出す」仕事に疲れてしまい、事業を売却。人と話して関係を作っていく地域おこし協力隊に魅力を感じ、広島県尾道市から移住しました。しかも同時期に主人も、東京で仕事をしながら大学生になることに。人生は本当何があるか分かりませんね。

とにかく話しかけてみる

地域おこし協力隊になってから、とにかく町の中で、年齢、性別を問わず、いろんな人に声をかけてみました。そしたら、狭い町内、つながるんですよ。それでどれだけ助けた

beを見て、県外から保健師の面接試験を受けに来てくれた方がいました。保健師は、看護師の資格を持っていないと取れない難関な資格であり、町にとって欠かれない仕事の一つです。この出来事は私にとって、『公式YouTubeを作った良かった』と心から思わせてくれる出来事でした。

琴平町の魅力を伝えたい…

面積は小さいけれど一大観光地でもある琴平町は、企業経営者や商売をされている方がたくさんいらっしゃいます。私はもともと地元が隣

れたことか。知らないことは、知ったかぶりせず質問すること、受け入れてみることが大事だと思います。こうしたことが、地域おこし協力隊の活動に役立っています。

また、毎月広報に記事を掲載していて、それを楽しみにしてくれている人もいます。構成もデザインも任せてもらっていますが、いろんな方が目にするので制約も多く、編集は毎月思った以上に大変です。難しい言葉は使わず、いつも違うデザインや文体にして、みんなが飽きないような内容を心がけています。

他にも、いくつか活動のお手伝いをしていて、特に力を入れているのが「ことひらまちじゅう図書館」です。琴平町には公立図書館がないため、町内のお店や美容室、カフェ、病院などに小さな図書館(本棚)を置いて、いろんな世代の人が楽しめる小さな居場所を琴平のまちじゅうに広げるプロジェクトです。現在、町内25か所の図書館があり、館長(それぞれの店主さん)が厳選したおススメの本が揃えられていて、とても自由で楽しい取り組みです。今まではSNSであまり発信されていなかったのですが、今後はそのお手伝いもしていく予定です。この活動がもっともっと広がって、琴平町に従来の形にとらわれない図書館が出来ればいいと考えています。

町の普通寺市だったので、土地勘はありませんでした。でも移住してから分かったことは、町民一人ひとり個性があつて、とってもいい方で優しい人ばかりということ。でも想いが強くなかなか一つにはまとまらない。ただ、だからこそ琴平町は、地域活動が盛んで魅力ある町だということに強く感じました。

こんな地域だからこそ、活動人も私なりに応援していきたいと考え、自分で琴平町のポータルサイトを作っています。このサイトの運営は卒業後も続けていきたいと考えていて、単にお店や商品に注目するのではなく、魅力的な人、一人ひとりに焦点を当ててインタビューし、さらに情報をまとめたサイトを作りたいと思っています。元々ファイリエイトもしていたので、広告収入を付けてサイト独自で収入が入るよう制作していく予定です。他の人が書けないようなことを書いていきたいですね。

地域おこし協力隊と言っても様々。いろんな人がいていい。私は自分がいることで、その場が明るく楽しくなるような人でありたい。そして、私は周りの人に恵まれている。と感じることが自分のままでいいし、そう感じさせてくれた琴平町の協力隊員になれて良かったと思っています。

「祝！成人！」



成人式で流した琴平町PR動画です。急遽作るようになったため、娘と姪っ子で撮影。何テイクも撮るため、どんどん不機嫌になって大変でした…(笑)

「令和3年度職員募集！」



令和2年度職員募集動画が劇画風、3年度は飛行機のアナウンス風。毎年なぜか風変わりな動画に。

「ありがとう 琴平中学校 旧校舍旧体育館！」



約60年使われていた琴平中学校の旧校舎の取り壊し前に、お別れイベントを計画するもコロナで中止に。中学校に通っていた多くの人たちに喜んでもらえた1本。



← 琴平町公式YouTube



善通寺市

ZENTSUJI

【善通寺市地域おこし協力隊】 日高 慎一郎 Hidaka Shinichiro

視覚的な美しさを超える圧倒的な描写力、、、そんな見る者を魅了する凄腕のフォトグラファー日高隊員は、柔軟な対応力を持ち合わせながら、反骨精神を燃やす人間味が溢れ、クリエイティブで尖った企画力を持ち味に、写真の力で善通寺市の魅力を発信しています。

PROFILE

大阪府出身。中学・高校・大学と柔道に明け暮れた後、広告会社へ就職。10年間営業で主にイベントを担当。その後、香川県へ移住し協力隊へ。就任して3年目を迎える。



日高隊員のInstagram

YouTube
むぎゆーちゃんねる



高校1年生の日高隊員



各方面との関係性構築

中から選んでいただくため、写真は欠かせないツールです。伸び悩んでいた返礼品の写真を撮り直したところ、カテゴリ別ではありませんが、常に全国上位5位以内をキープしております。着任当初から掲げている「市に関する写真のクオリティの底上げ」の代表的な案件になりました。

人の邪魔をせず、嘘をつかず、楽しく



ふるさと納税返礼品の写真

今回この「さぬきの輪」内の写真をほぼ撮らせていただきました。私自身を取り上げていただけの号でもあるため、実現したものです。どうせやるなら楽しくしようと、同じ号で掲載される協力隊員にもお声がけし、わいわいしながら撮影した写真たちです。

狭い地域になればなるほど、変な噂話や周りに振り舞わされることがありますが、自分のミッションをしつかりこなしければそういう声も聞こえなくなりました。隣の芝生が青く見える時もありますが、まずは自分の芝生をより青くすることが大切だと思います。

任期後の活動について

任期後も変わらずカメラマンとして活動予定です。協力隊を経験して、行政こそクリエイティブをもっと取り入れるべきであること痛感すると同時に、そしてそれが地域おこし協力隊の行動範囲では限界があることを学びました。ただ、協力隊はきっかけを作ることができることも学びました。任期中に経験し、学んだことを整理し、協力隊に興味がある人や実態を知りきれない行政部門に向けて、情報発信をしたいと思っています。



また写真を通じて今まで関係性の薄かったメディアと行政をつなぐことにも成功しました。雑誌「IKUNAS」では善通寺五重塔が表紙に抜擢され、タウン情報誌「ナイスタウン」では善通寺市を特集に取り上げていただきました。どちらも引き続き色々な案件でお世話になっていきます。写真がそのきっかけになったことは大変光栄でありましたし、個人的にはガッツポーズものでした。

善通寺市に関わる写真のクオリティを底上げしようと思いましたが

応募当時の募集要項には「動画制作ができる人」とありましたが、担当職員が私の写真を見て「カメラマンとして来てほしい」と話してくださり、現在に至ります。善通寺市は香川県内の他市町に比べて、いわゆる絶景と呼ばれるものが少なく、お寺が中心の町です。街並みも風情があつて良いのですが、やはり個人のお宅を市の公式写真としてPRすることはできず、苦勞したのを覚えています。

独り歩きできるコンテンツ作り

単発のイベントが多いなか、写真や動画を活用した持続可能なコンテンツも地域おこしにつながると感じています。私は目に留まる写真や動画をコンテンツとし、私がいなくてもプロモーションとして成り立つ企画をしていこうと決めました。「寺ンウェイ(テランウェイ)」や「日本一美しいボウリング場」がその代表です。YouTubeにアップすれば、「誰かがいつか注目して話題になるかも」、「たまたまボウリング場に来た人が話題にしてくれるかもしれない」、「こういった独り歩き可能なコン

텐츠を企画しては写真や動画に残してきました。

日高の写真は大したことない

そうして写真をSNSにアップし続けていき、小さなコンテンツを作り続けると、自分の写真が様々なところで起用され、より多くの人に「善通寺市」を認知してもらえます。雑誌の表紙、ポスター、カレンダーなど多くの媒体に取り上げていただいたことが地域おこしにつながったと思います。

一方で、私の撮る写真について批判的な意見をいただくことも増え、仕事が減ったこともありました。私より写真がうまい人がごまんといることは百も承知の上で人が魅力に感じる写真を一枚でも多く提供できるように試行錯誤を重ね、日々精進しています。

数字に直結する写真の力

地域おこしの活動は成果の見えるものと見えないものの差があると感じており、私の場合、あまり目に見える成果はありません。SNSのフォロワー数や「いいね」の数にすぎると本質を見失います。そんな中で数字に直結する案件がありました。「ふるさと納税」です。多くの返礼品の

手掛けたプロモーション企画事例

TEMPLE RUNWAY 寺ンウェイ

◆きっかけと目的 「寺をもっと身近に感じてほしい」「若者が興味を持つようなコンテンツがない」という相談から、当時ハイブランドがファッションショーを美術館や公園で実施していたことをヒントに、回廊をランウェイに見立てる動画を提案しました。動画を見て「寺でこんなことできるんだ」と、善通寺という寺を知ってもらうことを、またインバウンドも目的としており、コロナ禍でなければ日本の各総本山で実施予定のプロジェクトでした。

◆影響 ハイブランドプロデューサーから「善通寺という寺を覚えておく」と言ってもらったり、NHKをはじめ様々なメディアでも取り上げていただきました。また、このモデルが撮影後に複数の世界的有名企業で活躍したことで、ファンが増加。SNSでこの動画を紹介してくれる機会が増え、その度に善通寺の認知に繋がっています。



BOWLING WALL ART 日本一美しいボウリング場

◆きっかけと目的 着任してから気になっていた老舗ボウリング場。ある日ふと立ち寄ると巨大な壁画が目飛び込んできました。「善通寺市のアートスポットにしたい」と思い、店長に相談してみると「シニア以外がこない」「ボウリングの楽しさを知ってほしい」という悩みがあることを知りました。ここがアートスポットとして瀬戸芸にも絡むことができたらという考えと、自身がなくてもプロモーションが続くようにとの思いから、抽象作家であるkuromaさんに壁画のウォールアート化を依頼し実現したものです。

◆影響 基本的に口コミが一番有効だと思っているため、自分だけが企画したものはリリースをしたことがないのですが、新聞雑誌ラジオとメディアからメディアに伝染する理想の拡がり方をしてくれました。「10年ぶりにボウリングをした」という方など、多くの人が訪れてくださったほか、学生を招いての講演会の開催や常連の皆様が総出でお祝いをしてくださるなど、理想に近いシティブロモーションになりました。



香川県のローカルを導く人

香川県
丸亀市



湯川 致光さん Yukawa Yoshiaki

今回、丸亀市に人づくりの施設として新たに開設された市民交流活動センター「マルタス」にて取材を行いました。マルタスは、「丸亀」の丸（マル）と亀（トータス）の造語から生まれました。マルタスには、多くの人が行き交い、訪れる人の人生にも、丸亀の街にも何かプラスの場になるようにという願いと、できること（〇マル）を積み重ねていく（十足す）場所になりたいという想いが込められています。

今までとこれからの活動

自治体の官民連携政策アドバイザーを担い、「新しい公共」をつくることに奔走しています。また、丸亀市本島で地元企業の仲間と日帰りツアー「塩鮑本島 authentic ツアー」を造成するなど、エリアの活性化に取り組んでいます。令和4年度からは丸亀市営駐田キャンプ場を運営することにもなり、丸亀市の山から海まで包括したエリア活性化プログラムを構想中です。



地元事業者のメンバーとツアー内容について現地打ち合わせ



本島漁師の手ほどきを受け特産品の瀬戸内のタコ捌きを体験中

湯川さんが考える地域づくりで大事なポイント

地域づくりの仕事では、常に様々な年代の方や、異なる意見を持った人とコミュニケーションを図っていくことが求められます。その中で進むべき方向を定めていくことはとても大変です。

みんなが一緒に進めるように、意見を調整する「調整者」になることが大切だと考えます。

僕が考える「調整者」とは、意見を人から人に伝える「伝達者」ではなく、あるべき未来の姿を明確に持っている人です。自分なりに「地域をどうしていきたいか」という「意志」を持って、それを時間をかけて共有しながら、すべての人が納得した状態で進んでいけるように導いていくことができる人だと考えています。

行政、民間企業、NPOや市民など立場が異なる関係者の中で、また、水産会社、鉄加工会社、インテリア商社など業界の異なる方々の中で、意見の違う人々や利益と公共の間を考える難しさに直面した時にこそ、「意志のある調整者」として僕は熱い「ロマン」を感じます。

湯川さんは、丸亀市から都市再生推進法人（※）の認定を受けて、まちなかの再生に尽力されています。本誌で、「何を、伝えたいですか？」と尋ねたところ、地域づくりを行っている人に、手探りの中でも「ローカルの進む道」を示していきたいと

お話しくださいました。

※都市再生推進法人とは、都市再生特別措置法に基づき、都市の再生に必要な公共公益施設の整備等を重点的に実施すべき土地の区域のまちづくりを担う法人として、市町村が指定する法人。

地域づくりに関わるようになったキッカケは何ですか？

それは、小学生の頃の原体験が影響しているかなと思っています。

当時、東京の団地に住んでいたのですが、同年代の子どもが沢山いて、いわゆるガキ大将を中心にしたヒエラルキーのようなものがありました。

その中で、自分は仲間外れにされたくないという子ども心があったのですが、一人だけ輪の外にいる子どもがいました。僕はそれがすごく嫌で、「誰かを排除するような輪の作り方ってなんか違う」と強く感じたことを覚えています。その時に、小学生という小さな小さなコミュニティの中でも、「輪の作り方のあるべき姿」みたいなものを臚げながら描いていたのかも知れません。

そういう志向を持っていたので、誰かにターゲットを絞って行うようなビジネスの世界はあまり肌に合っていないくて「パブリック」とか「地域づくり」みたいなものを志向していったのだと感じています。その中で「地域づくり」では、マイノリティーな人も含め、誰一人取り残さない方法を考える事が大切だと思います。このような分野に関わることは、今思うと僕に合っ

いたんだと思います。

ローカルの進む道

ローカルの地域づくりに関わる人たちがやるべきことは、誰もがイメージしやすい「価値基準」をしっかりと作るのだと思います。「自分たちのアイデンティティを定義する」と言い換えてもいいかもしれません。

東京一極集中が進む中で起きているのは、「価値基準」がいわゆる「経済的な豊かさ」であり、「人・モノ・金・情報」の集まる状態こそが良くとされています。地方創生においても「稼ぐ力」が重要視されている部分があります。しかし、僕はそうではないと思っています。まずは「稼ぐ場所」である前に、暮らす場所、だと考えています。そのことを具現化するためには、「自分たちの価値基準」を持つことが必要です。自分たちが暮らしている町が一番なんだと胸を張って言えるようになるには「自分たちの価値基準」が欠かせないと思っています。

例えば、酪農が盛んな地域で「おいしい新鮮な牛乳が、毎日飲める町」のような価値基準が定義されれば、東京の大きな市場や全国から集まってくる流通網を以ってしても敵わない差別化を図ることができるのではないでしょ

うか。

これまでのローカルは、東京に追いつけ追い越せの視点での取り組みが多かったように感じます。しかし、これからは自分たちが住む町の特徴や資源をしっかりと深掘りして、誰もがイメージしやすい「自分たちの価値基準」をつくり、それを地域づくりの活動に宿していく必要があると思います。

湯川さんおすすめの本

ローカルエコノミーのつくり方
ミッドサイズの都市から変わる仕事と経済のしくみ
神戸から顔の見える経済をつくる会 著 学芸出版社

「ローカルに携わる人にはぜひ読んでもらいたい本です。神戸R不動産というローカル不動産事業とファーマーズマーケットなどのまちづくり事業を組み合わせ、さらには飲食から八百屋、宿泊事業まで手がける小泉さん（神戸R不動産）は、ビジネス性と公共性をバランスさせた地域づくりを実践されています。その実践経験から生まれた思想は他のエリアでもとても参考になると思います。」



PROFILE 湯川 致光さん

株式会社 HYAKUSHO CEO / パブリック・ディレクター / 立命館大学地域情報研究所研究員 / 市民活動の中間支援組織の「NPO 法人わがごと」のプロジェクトマネージャー
東北大学公共政策大学院修了（公共政策）。神奈川県庁、香川県庁、高松空港株式会社を経て独立。専門はPPP/PFI※、官民連携、エリアマネジメント、観光まちづくり、市民協働

※ PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方。





私がオススメします!



琴平町地域おこし協力隊
王迎 敬
(ワンインファン)

気軽に立ち寄れる“カジュアルフレンチ”のお店 ビストロことひら 果桜軒

金刀比羅宮の麓(ふもと)を流れる金倉川に面した果桜軒では、シェフが当日のヒラメキでつくる地元の旬菜をふんだんに使った季節の限定メニューがオススメです。“ハンバーグ”、“キッシュ”、“お肉のパテ”が、私の大好きなTOP3メニューですが、夜の「シェフお任せコース」は特にオススメです、どの料理を食べても「何これ、めっちゃ美味しい!!」と驚きの連続です。琴平に遊びに来た時は、ぜひお店にお立ち寄りくださいね!



香川県仲多度郡琴平町266 tel.0877-85-3998
11:30~14:00/18:30~22:00(LO.21:30) 定休日/火曜日、第1・第3水曜日



ゆったりと流れる
“島時間”を過ごせる宿

ネコノシマホテル

人と猫がゆったりと暮らしている小さな島、それが佐柳島(さなぎじま)!!多度津港から新なぎさ2(フェリー)で、約1時間で到着します。島唯一のゲストハウス兼カフェ「ネコノシマホテル」は、旧佐柳小学校の木造校舎をそのまま活かしていて、懐かしさを感じる建物が魅力的です。元職員室でいただく“スパイシーなカレー(数量限定・予約可)”も格別で、たくさんの猫たちと過ごす“島時間”はとってもオススメです。



香川県仲多度郡多度津町佐柳1353 tel.0877-35-3505
E-mail/info@neconoshima.jp 定休日/月・火曜日
https://neconoshima.jp

私がオススメします!



多度津町地域おこし協力隊
坂川 桃香
(サカガワ モモカ)



私がオススメします!



東かがわ市地域おこし協力隊
野田 克哲
(ノダ カツアキ)

瀬戸内海を望む“無料”野営場 田の浦野営場



目の前に海が広がる“田の浦野営場”。東かがわ市には、予約なし・料金無料・時間制限なく24hいつでも使い放題の野営場があります。2021年7月にシャワー付きのトイレが新調されたり、灰捨て場があるのも嬉しいポイントです。SUPやカヤック、釣りなどのマリナーアクティビティをはじめ、引田城跡も徒歩10分の距離にあるので散策するのもオススメです!!標高82mの城山山頂から見渡す港の町並みや漁港の風景も見どころです。

香川県東かがわ市引田3017-2
※予約不要、洋式トイレ有、利用料無料、常時解放(24h可)、ゴミ持ち帰り、駐車場有
※お風呂はありませんが、近隣に温泉施設(翼山温泉)があります。



協力隊のオススメ 香川歩き



まんのう町で資材を揃えるなら!

西村ジョイ 琴平店

琴平店だけでなく、所在地は実はまんのう町。ツーバイフォーなどDIY用資材をはじめ、金具類や大工道具、業者向けの大きな資材なども豊富。大量発注にも快く対応していただけます。リニューアルされた資材館にそびえ立つ4m級のヒノキの一枚板は要チェック!!ついつい時間を忘れて店内を何周もしてしまう、まんのう町最大のホームセンターです。



私がオススメします!



まんのう町地域おこし協力隊
岩井 つくし
(イワイ ツクシ)



香川県仲多度郡まんのう町買田553-1 tel.0877-75-5800
9:00~19:30(資材館は8:00~) 駐車台数 約100台 https://www.nishimura-joy.co.jp/

私がオススメします!



綾川町地域おこし協力隊
山下 真央
(ヤマシタ マオ)

香川県綾歌郡綾川町粉所東3808
tel.087-878-3340
受付時間:8:30~17:00
※事前予約要、予約は電話のみ
https://www.tatutanomori.jp

綾川上流にあるサードプレイス 柏原溪谷キャンプ村 タツタの森

細くクネクネした山道が続き、道中の運転は少しドキドキするかもしれませんが、隠れ家のようなこのキャンプ場に滞在すると、穏やかな気持ちになります。ここにはテントサイト、バンガロー、お風呂(温泉)がついたコテージがあり、アウトドア初心者でも気軽に楽しめます。個人的には、川のせせらぎを聞きながら、「道の駅滝宮」で手に入れた新鮮な地元食材を使ってBBQをすると、格別なひとときを感じられるのでおすすめです。



アウトドアのテイストを取り入れた“caféスタイル”のお店

季節の外ごはん Okibi

ナチュラルなテイストの店内には、キャンプギアも置かれていてとてもオシャレな空間です。地元の生産者から仕入れている肉厚でシャキッとした食感の“らりるれ ロメインレタス”を使ったLunch限定のボリュームたっぷりサンドイッチがオススメ。香川県ブランド牛の“オリーブ牛”を使った熱々のハンバーグも絶品です!!カッコいいアメ車のキッチンカー(移動式居酒屋)では、ちょっと変わったDinnerを楽しむこともできます。詳しくはお店のInstagramやFacebookをご覧ください。



私がオススメします!



観音寺市地域おこし協力隊
小原 祐二
(コハラ ユウジ)

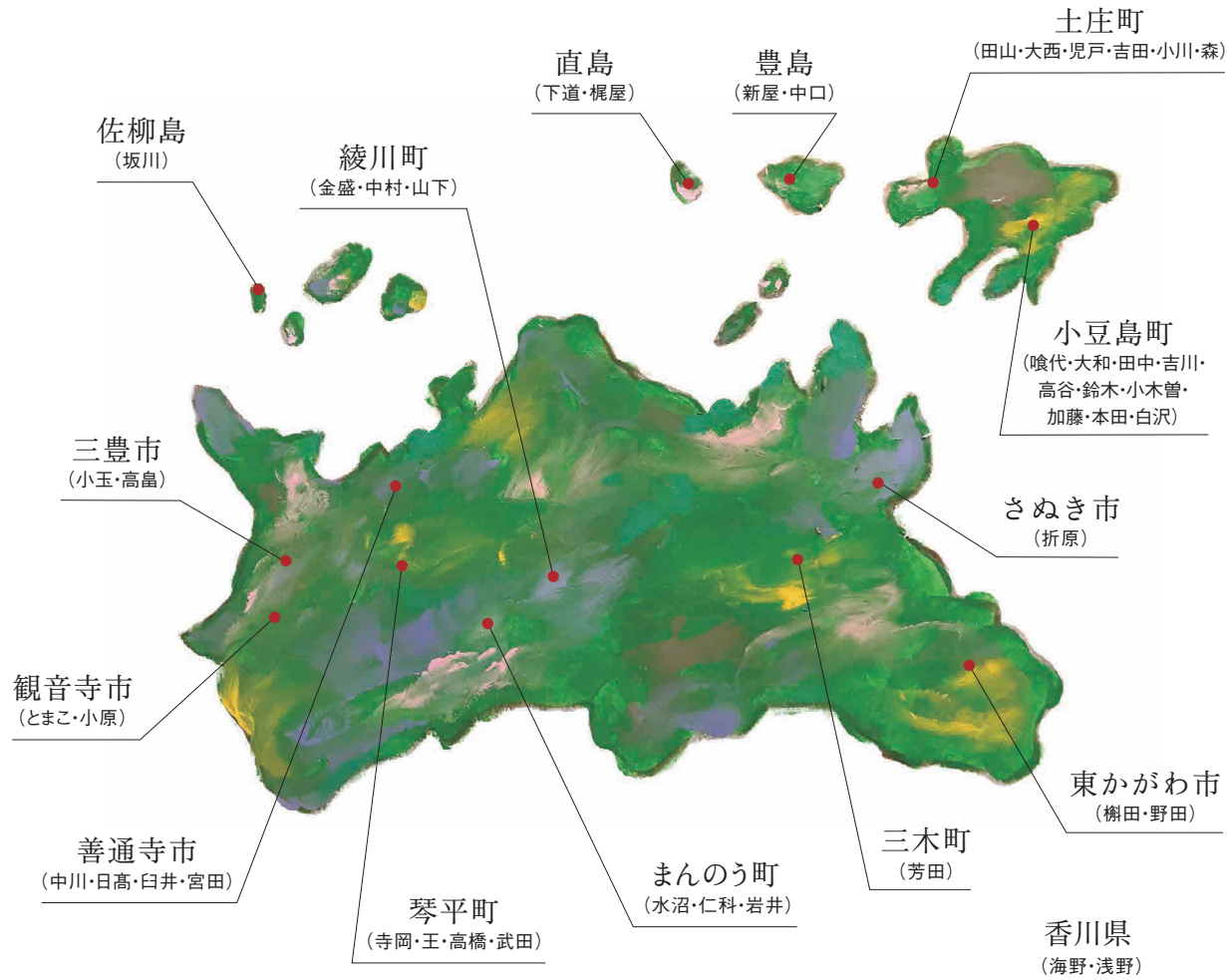
香川県観音寺市柞田町乙959-1
tel.0875-24-9686
11:00~15:00
定休日/水曜日、第3水曜日
https://www.facebook.com/Okibi-394032237459964/



KATSUDOU-MAP

地域おこし協力隊の活動場所

※2022年1月31日現在



県内で活躍する協力隊の
プロフィールが見れるよ!



協力隊の活動が
分かる活動日記のリンクが
載っているよ!

あとがき

今回も様々なミッションの地域おこし協力隊をご紹介しました。中でも「地域おこし協力隊」や「地域をつなぐ人」の視点から「地域資源」や「そこに住む人の魅力」、「地域づくりの思い」を感じていただけたら幸いです。今回も取材にご協力いただいた皆様、写真・執筆・挿絵デザイン等にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

香川県の絵・裏表紙の絵…本橋英里

さぬきの輪の活動

香川県では、協力隊同士や行政担当者、OB・OGとネットワーク形成のため、活動報告会や研修企画、交流会を通じて学びの場を共有しています。

活動地域から学ぶ



さぬきの輪の集い

活動地域を超えて、定期的に活動場所の視察や研修を行う「さぬきの輪の集い」。現役隊員の活動場所を訪ね、活動内容や意見交換を実施。行政担当者も参加し、様々な活動をヒントに互いに共有しあいます。

先輩から学ぶ



さぬきの輪 OB・OG会

香川県でも増えてきたOB・OG。任期後も今まで築いてきたネットワークを活かせるよう、交流会を通じて新旧協力隊の輪を広げます。頼りになる先輩方と、卒業後も会える貴重な機会です。

その他の取り組み

Welcome to KAGAWA 新隊員交流会



他県の協力隊ネットワーク 組織との連携や情報交換



地域おこし協力隊
募集情報も掲載!



さぬきの輪



地域おこし協力隊
ポータルサイト



香川県の地域おこし協力隊情報はコチラ



ローカルライフを
始めてい!



かがわ移住ポータルサイト
かがわ移(く)らし



香川県に移住をお考えの皆さまに



移住フェア
などの情報を
GET!

江戸講中燈籠（太助燈籠）

かつて金毘羅詣の参拝者はこの燈籠を目印に港に船で入港していました。海路から参拝に訪れる人々は、現在の丸亀港や多度津港などに船を泊めて、金毘羅街道を通過して金刀比羅宮に向かったといわれています。

金毘羅街道の往還の繁栄は、江戸中期から後期にかけて盛んとなり、明治初期に及んでいます。それには様々な要因がありますが、特に水陸交通の発達と「金毘羅講」の成立が挙げられます。

金毘羅講は、金毘羅信者の参拝を目的に組織された団体です。講によっては一定の講金を抛出し、集めたお金で代参者に金毘羅参りへの想いを託していました。代参者はくじ引きなどで選ばれたそうです。代参者が講中の人々にお土産を買って帰るので、金刀比羅宮の周辺では土産屋が繁盛しました。また、金毘羅街道の道中には参拝者が休憩するためのうどん屋や菓子屋、茶堂があちらこちらに栄えていました。

江戸講中燈籠は、天保9年（1838年）に完成しました。台座には、「江戸講中」と、そして燈籠の側面には寄進者や世話人ら1,300を超え人の名前が刻まれています。寄進者の中で、最高額の80両を寄進した「塩原太助」の名にちなみ、「太助燈籠」とも呼ばれ今でも地域に親しまれています。

取材協力 丸亀市立資料館 学芸員 大北知美さん

